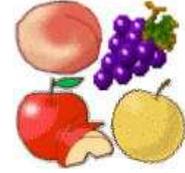




# 平成24年度 果樹情報 第10号

(平成24年8月3日)



福島県農林水産部農業振興課

## 1 気象概況 (7月4～6半旬：果樹研究所)

平均気温は4半旬が24.1℃で平年より0.5℃高く、5半旬が21.3℃で3.1℃低く、6半旬が27.9℃で平年より2.5℃高い状況でした。この期間の降水量は9.0mmで平年の14%でした。

## 2 土壌の水分状況 (7月31日現在)

果樹研究所における土壌水分 (pF値：無かん水・草生栽培りんご園) は、深さ20cmが2.9、深さ40cmが2.3、深さ60cmが2.3で、深さ20cmは乾燥状態にありますが、40cm以下は適湿条件の範囲です。

## 3 生育概況 (果樹研究所)

### (1) モモ

#### ア 果実肥大 (8月1日現在)

果実肥大を暦日で比較すると、「あかつき」は縦径が67.1mmで平年比102%、側径が71.3mmで平年比96%とほぼ平年並み、「ゆうぞら」は縦径が54.7mmで平年比98%、側径が50.8mmで平年比92%と平年より小さい状況です。

また、満開後日数による比較では、「あかつき」は平年並み、「ゆうぞら」は平年より大きい状況です。

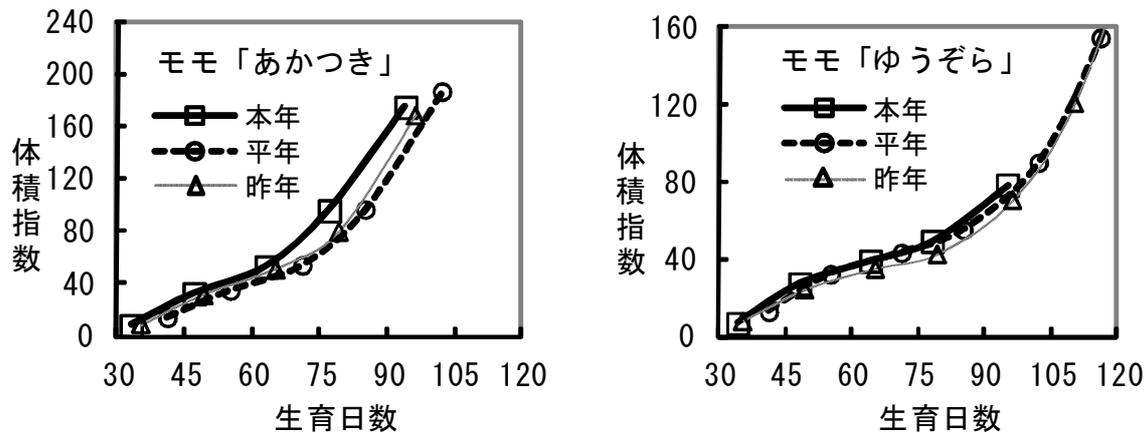


図1 モモの果実肥大 (8月1日現在)

#### イ 新梢生長 (満開後90日現在)

「あかつき」の新梢生長は、新梢長が10.0cmで平年比72%と短く、展葉数は14.1枚で平年比88%と少なく、葉色は平年比102%とほぼ平年並みの状況です。なお、「あかつき」の新梢停止は、平年より早い状況です。

#### ウ 収穫期と果実品質

「日川白鳳」の収穫始めは7月17日で平年並み、収穫盛りは7月21日で平年より1日遅い状況でした。果実の大きさは230g (平年225g) で平年よりやや大きく、糖度は10.6 (平年11.0) で平年よりやや低い状況でした。

「暁星」の収穫始めは7月26日で平年より3日遅い状況でした。収穫盛りは平年より4日遅い7月31日頃の見込みです。

「あかつき」の収穫始めは8月7日頃で平年より5日遅い見込みです。

(2) ナシ

ア 果実肥大（8月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が54.3mmで平年比103%、横径が66.1mmで平年比102%とほぼ平年並み、「豊水」は縦径が52.7mmで平年比100%、横径が58.9mmで平年比101%と平年並みの状況です。

また、満開後日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

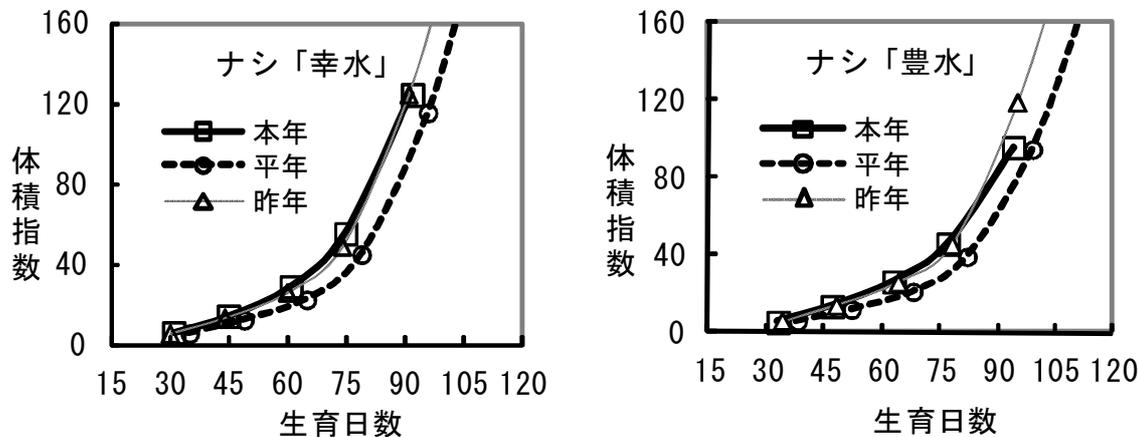


図2 ナシの果実肥大（8月1日現在）

イ 新梢生長（満開後80日現在）

「幸水」の新梢生長は、新梢長（予備枝）が130.4cmで平年比116%と平年より長く、葉枚数が33.3枚で平年比108%と平年より多い状況です。「豊水」は新梢長（予備枝）が119.4cmで平年比112%と平年より長く、葉枚数が29.6枚で平年比102%と平年並みの状況です。

ウ 裂果発生

「幸水」の裂果発生率は0.1%（平年4.5%）で、平年より低い状況でした（平年値は1999～2011年の平均）。

(3) リンゴ

ア 果実肥大（8月1日現在）

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が68.4mmで平年比104%、横径が76.0mmで平年比101%と平年よりやや大きく、「ふじ」は縦径60.5mmで平年比102%、横径が65.8mmで平年比101%と平年並みの状況です。

また、満開後日数による比較では、両品種ともに平年よりやや大きい状況です。

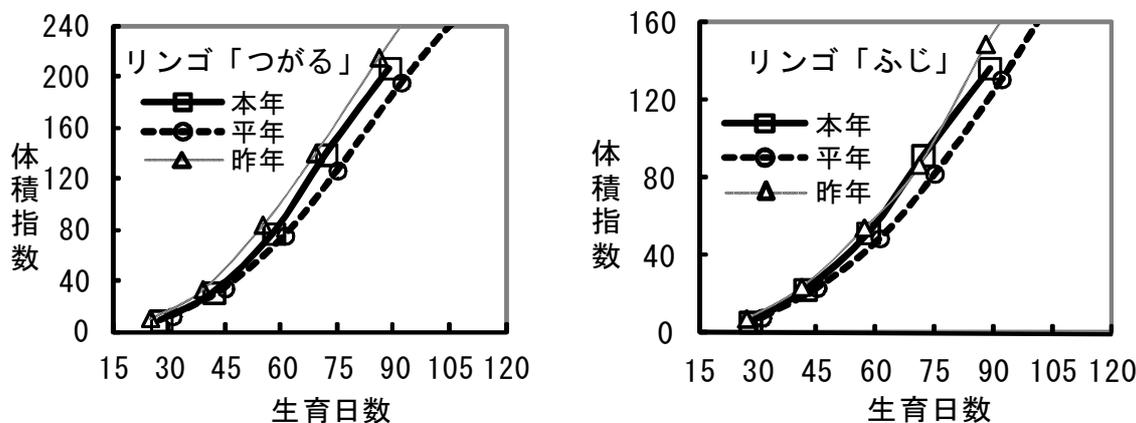


図3 リンゴの果実肥大（8月1日現在）

(4) ブドウ

ア 着色期

「巨峰」の着色開始期は、有核栽培樹では7月28日（昨年7月22日）、無核栽培樹では7月29日（昨年7月26日）でした。また、「あづましずく」一文字整枝の着色開始期は7月25日（昨年7月19日）、自然形整枝（露地栽培）の着色開始期は7月21日（昨年7月16日）でした。

#### 4 栽培管理上の留意点

##### (1) 共通

今後、降水量が少なく土壌が乾燥するような場合は、以下の対策を実施してください。

##### ア かん水

盛夏期における果樹園からの1日当たりの蒸発散量は、晴天日で6～7mm、曇天日で2～3mm、平均で4mm程度なので、1回のかん水は25～30mm程度（10a当たり25,000～30,000L）を目安とし、5～7日間隔で実施しましょう。保水性が劣る砂質土壌などでは、1回のかん水量は少なくして、かん水間隔を短くしてください。

モモでは収穫5～7日前以降のかん水は糖度など品質の低下につながりやすいので、かん水が必要な場合は早めに実施しましょう。

##### イ 草刈り

樹と草との水分競合を防ぐため、草生園では草刈りを行いましょう（草生園における地表面からの蒸発散量は、草刈りをして刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分とされます）。

##### ウ マルチ

刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょう。なお、稲わらを使用する場合は、暫定許容値以下であることを確認したものを使用してください。

##### (2) モモ

##### ア 中生種の収穫

「あかつき」の核障害果では、果肉先行の成熟になりやすい傾向があります。特に核割れ果や胚に障害を受けている果実は成熟が早まりやすい傾向があるため、果肉の軟化に注意し収穫が遅れないように注意しましょう。

##### イ 晩生種の収穫前管理

「川中島白桃」「ゆうぞら」等の品種では、果実肥大が盛んな時期に入るので、適期に修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置など収穫前の管理を計画的に実施しましょう。

##### (3) ナシ

##### ア 修正摘果

「幸水」は、裂果期が終了したので、早急に修正摘果を実施しましょう。裂果した果実、変形程度の著しい果実、果点コルク間の地色が白い果実（肥大が停滞しやすい）及び満開後100日頃の横径が60mm未満の小さな果実を摘果します。摘果は過剰に行わないよう注意しましょう。

「豊水」は、満開後100日頃を目安に小玉果と変形果を摘果しましょう。

##### (4) リンゴ

##### ア 落果防止剤散布

「つがる」の落果防止剤の散布時期は、平年の収穫開始日を基準に判断しましょう（果樹研究所の普通系「つがる」の平年の収穫開始日は8月29日。着色系統はこれより収穫期が早いので注意が必要です。）。「つがる」の成熟は、満開後100日（8月中旬）頃から急速に進み、天候によっては収穫期が大幅に前進する場合がありますので注意しましょう。

「つがる」の落果防止剤としてストッパール液剤を用いる場合は、収穫前使用日数に注意しましょう。

##### イ 早生種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」では果面の30%程度が着色した頃から摘葉を実施します。気温の

高い日が続く場合には日焼け果の発生のおそれがあるため、果そう葉と新梢葉の2回に分けて実施しましょう。

ウ 修正摘果

中晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を行いましょう。

(5) ブドウ

ア 生理障害対策

土壌水分の急激な変化は縮果症の発生を助長します。梅雨明け後は気温が上昇し、土壌表面や葉からの蒸散も盛んになり乾燥しやすいので、こまめなかん水を心がけましょう。

イ 摘心（長梢せん定栽培）

一定の葉数が確保された8月以降に摘心を実施すると、果実品質向上と新梢の充実促進に期待できます。8月上旬になっても伸長が続いている強い新梢は、20～25葉程度を目安にそれより先を摘心します。摘心の実施後、棚下が暗い場合は新梢の間引きを行いましょう。このとき、間引く本数は必要最小限にとどめましょう。また、副梢の摘心も同時に進めましょう。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ斑点落葉病、褐斑病、輪紋病、炭疽病

今後、斑点落葉病、褐斑病、輪紋病の増加に注意が必要です。特に降雨がある場合は、8月上旬の防除を徹底しましょう。

なお、炭疽病の発生が多い園では、8月上旬の防除で、本病害にも効果がある薬剤を選択し、散布しましょう。

イ モモ灰星病、ホモプシス腐敗病

灰星病は、天候の推移に注意しながら防除を行いましょう。花腐れの発生が多かった園では散布間隔が開きすぎないように注意し、多雨条件が続くような場合は収穫期間中にも防除を実施しましょう。なお、薬剤の使用にあたっては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）に十分注意してください。

晩生種に対してはホモプシス腐敗病対策も必要であるため、効果のある薬剤を選択して防除を徹底しましょう。

ウ ナシ黒星病

「幸水」では、8月上旬頃までに感染した果実が収穫期に発病するおそれがあるため、発生が多い園では注意が必要です。本病の発生が見られ、前回の散布日から10日以上散布間隔が開いている場合は、ただちに防除を行ってください。なお、薬剤の使用にあたっては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）には十分注意しましょう。

(2) 虫 害

ア モモノゴマダラノメイガ

発生が多い地域では、中晩生種を対象に8月中～下旬に防除を行いましょう。発生が続く場合は、散布10日後にも防除を行ってください。なお、薬剤の使用にあたっては農薬使用基準（収穫前日数、使用回数）に十分注意しましょう。

本種はクリやカキなどにも寄生するため、近隣にクリ園やカキ園があり、発生の多いモモ園では、クリやカキ園の防除も行いましょう。

イ モモハモグリガ

第4世代幼虫の防除適期は平年並の8月2半旬頃と推定されます。発生が多い園ではただちに防除を行いましょう。

本種の発生には、防除が不十分なハナモモ園や放任園などの影響も考えられるので、これらの対策にも注意しましょう。

ウ ナシヒメシンクイ

ナシヒメシンクイ第3世代幼虫の防除適期は8月4半旬頃と推定されます。本種の第3世

代以降はナシ果実への寄生が増加すると考えられます。また、高温が続いた場合、8月中旬以降に交信かく乱剤の揮発量が減少し、防除効果が低下することがあります。例年、ナシでの果実被害が多い場合や、近隣のモモ園における芯折れが多い地域では、第3世代以降に対する防除を必ず実施しましょう。

エ カメムシ類

6月29日付け病害虫発生予察情報（注意報第3号）ですでに注意を呼びかけていますが、その後もカメムシ類の誘殺数は増加しています。山間及び山沿いの果樹園ではカメムシ類の被害を受けやすいので、園地ををよく観察し、多数の飛来が見られる場合は速やかに防除を行いましょう。

オ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は8月上～中旬頃、クワコナカイガラムシ第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃になると考えられます。

特に、カメムシ類対策等で合成ピレスロイド剤やネオニコチノイド剤等を多く使用している園地では、天敵類の減少によるカイガラムシ類の増加に注意しましょう。

カ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉に雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

表1 果樹研究所における主要害虫に対する防除時期の推定（平成24年8月1日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ	
	第4世代成虫盛期	第5世代防除適期
2℃高い	8月4日	8月7日
平年並み	8月3日	8月6日
2℃低い	8月4日	8月8日

注) 演算方法は三角法による。

起算日 モモハモグリガ：7月12日

**病害虫の発生予察情報・防除情報**

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。